

CBI学会の活動目標

- 研究講演会/広報誌NEWS : 1981年～
- 年次大会 : 2000年～
- 学術誌Journal : 2001年～
- 研究開発事業Grand Challenge : 2000年～
- 教育、人材育成事業 : 2004年～

Chem-Bio Informatics 学会の関心領域は広い

- 化学: Nano: 分子からデザインする
- Bio: 生体(生物)への影響をしらべる
- Information: Computer

- IT産業、医薬品開発、バイオ産業、医療、
化学物質の安全性、健康、食品、農業、環
境問題、エネルギー問題、...

次の社会

- 情報知識社会への移行: 1970年～
- 世界政治状勢: 冷戦後1989年～
- インターネットIT革命: 1994年～
- アジア経済圏の台頭: 1990年～
- 日本人の平均寿命: 30年/戦後50年
- 3世代の子供の数: 10人→3人→1人
- 日本経済: プラザ合意: 1986年～
- 日本の世紀からJapan Passingへ

知識労働者の雇用をめぐる問題

- 人材派遣と仕事の請負業
- 大学院の拡充と意義
- 継続学習の機会
- 短期契約労働者の中年以後の生活
- 正規雇用者の流動性の増大
- 家庭に入った女性の再就職
- いわゆる定年退職者の働く機会
- 海外からの頭脳流入の機会をふやす

学ぶことと働くこと

- 知識労働者は働くための組織を必要とする
- 雇用の機会は学際領域で生まれる
- 学校、学会は学際領域への対応が遅い
- 求人と求職のミスマッチが起きている
- 教育は国にコントロールされているが、学習は、個人でコントロールできる
- IT革命の中に学習の機会を求める
- CBI学会の行動目標:「学ぶことと働くこと」を結ぶネットワークを構築する

私の予想: 次のフロンティア



1960年代

物理学

量子計算
量子情報



情報学

1960年代

化学+情報学



1980年代
CBI

Pathway/Network to Disease



1970年代
医療情報学

1970年代

生物学+情報学